

新日本ニュース

シネスコ版

No. 578

40.2.12

一、この子に愛の手を

—東京—

二月六日東京新宿にある厚生年金会館で小児マヒの子どもを救う第一回の「あゆみの会」のチャリティー・ショーが開かれました。会場には作家の水上勉さんをはじめ、俳優の森繁さん、伴淳さんも出席し、身体不自由児に「愛の手を」と小児マヒ児童の窮状を訴えていました。全国から寄せられた浄財はこの日で五百万円にもなりました。

身体障害児対策の不備が問題になっているおりから、これは大きな意味があったといえます。

そうしたなかで九日、たった一つの国立養護学校である、東京教育大学付属桐ヶ丘養護学校の入学試験が行なわれました。身体不自由児、病弱児等のうち小、中など義務学年にあたる児童、生徒の数は都内で約四千四百人といわれ、うち二千二百人が養護学校へ入るよう義務づけられています。だが都内の収容する施設は五校で八百八十人に限られているのです。あとの千三百人の子どもたちはまったく「野放し」同然になっているのです。

ここには国民の善意におんぶしてしまつた国にこそ問題があるようです。

カメラ・スケッチ

一、動物やまはま

—東京、群馬、京都—

群馬県数塚温泉に巳年にあやかっか、あるまむし酒製造会社の社長さんが研究と蛇の宣伝にと一石二鳥を目論んで蛇園なるものを作りました。冬眠の終る四月開園の前に、もういまからこわいものみたさの観光客が押しかけています。さすが強引に押しかけただけあってはじめてのヘビ料理にもまんざらではない食欲をみせていました。一方こちらは蜜蜂をつかって病気を治しましょうというご老人。

針治療の針を蜜蜂の針に変えた発案がよかつたのかどうか、効目は絶対とか、連日大変な賑わいです。一人に一日二十四匹はいるそうで、ちよつとした残酷物語、蜂君とんだ所でお役に立っています。

また京都の中島さんの飼犬「幸風」は人間様の悩みなら何んでも相談のつてあげましようという大変なお犬様、「易大相談所」の主でもあります。飼主の中島さん夫婦が「幸風」の不思議な能力に気づいたのが四年前、何気なく品物を買って来て値段を尋ねたら、ずばり吠えて答えたというのがそもそものはじまりといひます。

いま中島家には入学試験を占つてくれという学生さんや、株の相談を持ち込む人達がひきもきらないようです。

224

388

6/2 F